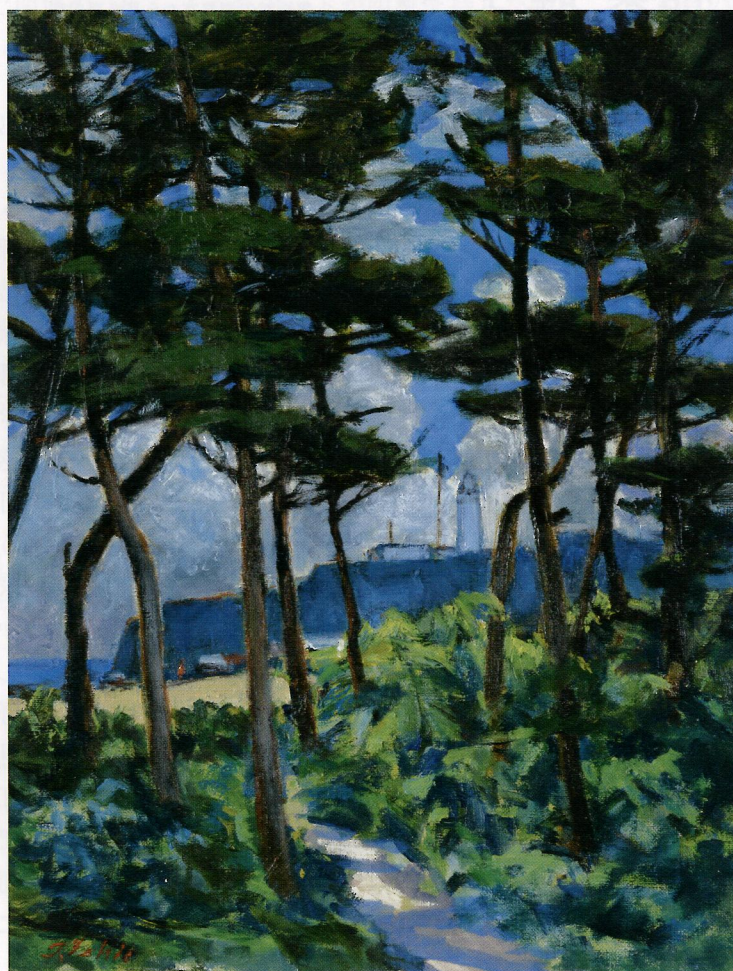


# 遊美

- 1 石井 勤先生の作品と  
作品についての言葉
- 2 学芸員に聞く  
稲葉主任学芸員
- 3 作家探訪 内海聖史先生
- 4 国内美術鑑賞旅行 山形
- 5 美に遊ぶ／ギャラリートーク
- 6 ギャラリートーク  
水彩画スケッチ講座  
友の会ニュース  
あとがき



石井 勤 「初夏」

1975年頃／油彩・カンヴァス／40.9 × 31.8cm

この作品は40有余年前の写生の思い出。著名な画家たちの犬吠埼の絵を見るたびに、未熟な私も描きたくなりバン型オンボロ車を走らせ現場に行き、早速カンヴァスに向かったが、如何にせん。それから君ヶ浜へ熱砂の上を歩き、良いスケッチ場所を探し疲れ、防風林の中へ。灯台が見える位置に涼しい風に助けられイーゼルをセット、無我夢中で絵の具

を塗る。カンヴァスの中の絵を見て描くことを止めようと思う。寒くなって暖かい砂浜に寝ころび、見上げた初夏の空と心地よい潮風が今でも思い出される。写生一ヶ月後頃に見た時、下手なりにあの時の現場の情景が感じられたので、加筆し仕上げた作品です。

(水戸市在住・会員)

# 游美

- 1 西脇 静子先生の作品と  
作品についての言葉
- 2 新副館長のご挨拶／美に遊ぶ
- 3 学芸員に聞く  
中田首席学芸員
- 4 作家探訪 國府田仁彌先生
- 5 国内美術鑑賞旅行 東京
- 6 ギャラリートーク  
日本画講座  
あとがき



西脇 静子 「枇杷は小さい木の実だから」

2006(平成18)年頃／顔彩・和紙／72.7 × 60.6cm

「游美」の表紙にとのお話に驚きながら、長年茨城に住み、いろいろな形でお世話になっており、何かお役に立てばと思います。

この作品を描いたのは10年位前ですが、高校時代絵の世界に接したのは、キンダーブック等の本に絵を描かれていた黒崎よし介先生のグループでした。

その後先生方が疎開から戻られ、日本画の羽石光

志先生のグループに入れて頂き、芸大に学び現在に至ります。

孫が生まれ、子供の可愛さから始まり、今は子供たちが大切なこと、未来の地球まで心配される今日この頃です。

鬼子母神にお願いして護って頂きたいと思っています。

(ひたちなか市在住)

# 遊美

- 1 廣澤 節先生の作品と  
作品についての言葉
- 2 学芸員に聞く  
富永首席学芸主事
- 3 作家探訪 滑川由美先生
- 4 美に遊ぶ
- 5 心に残る私の一点  
友の会代議員会報告  
京都美術鑑賞旅行案内
- 6 休館のお知らせ  
友の会 HP / 行事予定  
お詫びと訂正 / あとがき



廣澤 <sup>みさお</sup> 節「水郷終日」

1992年 / 油彩・カンヴァス / 130.3 × 162.1cm / 第54回一水会展 (1992)

私の住んでいる笠間は自然環境に恵まれ、車で1時間前後で、山、海、川の自然の広がる場所に行けます。

この作品は24年前にもなりますが、高浜漁場近くに生簀<sup>いけす</sup>が作られて、木の舟がそっと休んでいました。ここは周囲に野生の蓮が広範囲に広がり、足元には春一番のタンポポ、柳の木が早々と芽を出し、いろいろな野鳥、水鳥たちが寄って来ます。晩秋から早春の温かい日差しが注ぐこの場所が大好きで描

いています。

生前、私の師本郷惇先生（安井曾太郎、中村彝を師とした）とスケッチに行った思い出があります。今は愛犬Qちゃんを連れてたりして一人で出かけて描いていますが、良い出来ですと満たされた気分で蓮を買って帰路につきます。

現在堤防や護岸などが出来、少しずつ良い眺めが失われていくのをさみしく思っております。

(笠間市在住・会員)

# 遊美

- 1 齊藤 奎二先生の作品と  
作品についての言葉
- 2 寄稿 尾崎正明館長  
東山魁夷  
唐招提寺障壁画展によせて
- 3 学芸員に聞く  
大村主任学芸主事
- 4 国内美術鑑賞旅行 京都
- 5 国内美術鑑賞旅行 郡山  
県北芸術祭鑑賞ツアー
- 6 ギャラリートーク  
絵手紙講習会  
あとがき



齊藤 奎二 「街角寸景」(ポーランド・ワルシャワ)

2015年／水彩／65.2 × 91.0cm／第20回日本の美術展

ずいぶん昔になってしまったが、現在のロシア連邦(旧ソ連)の共産主義体制下でのポーランドを訪れたことがある。当時は、生活も貧しく暗い印象の国であった。2014年の春、ポーランドを再び訪れる機会に恵まれた。当時とは違い首都ワルシャワは、明るい観光都市になっていた。この絵のワルシャワ旧市街地は、第二次世界大戦でドイツの爆撃で廃墟と化したのが、市民の手で壁のひび割れひとつに至るまで40年の歳月を掛けて忠実に

再現復旧、1980年ユネスコ世界遺産に登録された地区である。観光客が集まる古い建物群にある中央広場の一角で、手内職で作ったか?と思われる手編みの帽子を売っている露天商の老婆を描いたものである。鮮やかな色とりどりの帽子と、物憂く老いの境地の瞬間を浮かびあがらせている老婆の表情を表現してみたかった。春の日だまりの中一瞬観光客の喧騒から隔離されたような静かな空間が印象的であった。(ひたちなか市在住・会員)

# 游美

- 1 佐野 則子先生の作品と  
作品についての言葉
- 2 学芸員に聞く  
塩田 稔雄学芸員
- 3 作家探訪 菊池元男先生
- 4 寄稿 田口克弥副館長  
ギャラリートーク
- 5 国内美術鑑賞旅行 青森
- 6 友の会代議員会報告  
写真撮影会  
あとがき



佐野 則子 「いつの日か」

2017(平成29)年/油彩・カンヴァス/90×72cm

日々の仕事の中で 自分らしく 子供たちに何かを伝えたい。  
絵を描くことで癒されたいという妄想が膨らみ  
和らぎと愛に満ちた平和な心で描きました。  
魚たちは飛行機 新幹線に乗り 又青春キップで  
目に映る景色を楽しみながら 旅をしています。  
線路は どこまでも 銀河までも続いていて  
自由は不思議です。

(石岡市在住)

# 遊美

- 1 石井 政雄先生の作品と  
作品についての言葉
- 2 学芸員に聞く  
村山佐知子首席学芸主事
- 3 「文化庁新進芸術家海外研修  
制度 50 周年記念展」のご案内  
心に残る私の一点
- 4 作家探訪 庄司 勲先生
- 5 美に遊ぶ
- 6 友の会会員作品展  
友の会マスコットキャラクター  
及びロゴマーク決定  
あとがき



石井 政雄「池塘、野の風」

2016（平成 28）年／紙本・岩絵具／150 号

昭和 23 年頃、東京江戸川区は田畑広がる中に池や小川が沢山あるところでした。現在は家が密集廃ガスの中です。その都会の塵の中で昔の風景にあこがれていたのだと思います。今、銚田の地に移住、空気のさわやかな樹木に囲まれています。

ひまわりは昔の想いのその中に長い間燃え続けていたような気がするのです。また景色は新緑紅葉ではなく、冬枯れ又は春待ち頃の黄土色を好みます。家は櫟林の中に沢山のアジサイを植え、春早く

ふっくらと咲くキンラン、波うつアジサイの花が終わる頃強い芳香が林中に広がる山ゆり、山吹は林一面黄金に塗りつぶします。清らかそのものの白い秋明菊と梅花ウツギが咲きます。1mの円をなすシャクナゲは豪華。薄モモ色の秋海棠がやさしく咲く、それらと語り描きつづける毎日なのです。

吾が屋前の萩の花咲けり見に来ませ いま二日ばかりあらば散りなむ（万葉集より）

（銚田市在住）

# 遊美

- 1 金原 章郎先生の作品と  
作品についての言葉
- 2 学芸員に聞く  
小泉淳一副参事兼美術課長
- 3 作家探訪 武石 絹枝先生
- 4 美に遊ぶ／国内美術鑑賞旅行
- 5 海外美術鑑賞旅行  
チェコ・オーストリア
- 6 国内美術鑑賞旅行  
友の会からのお知らせ  
あとがき



金原 章郎「アレッチ氷河 (スイス)」

2016年／油彩・カンヴァス／F10号／チャーチル会展

2015年5月、近代美術館友の会主催のスイス旅行に家内と孫娘と三人で参加した。ユングフラウ鉄道でトンネルを登る途中アイスメア駅で数分間の停車。岩に掘られた展望台のガラス窓越しに雄大な氷河の写真を撮った。それをもとに日立市で参加している絵のグループ、チャーチル会展に出す絵を描

き始めた。「絵はもう出来上がった？」と入院中の家内は思い出す度に尋ねる。ようやく展覧会の搬入に間に合ったことを告げると「よかったね」と家内は微笑んだが、展覧会最終日の昼過ぎ静かに息を引き取った。

(水戸市在住)